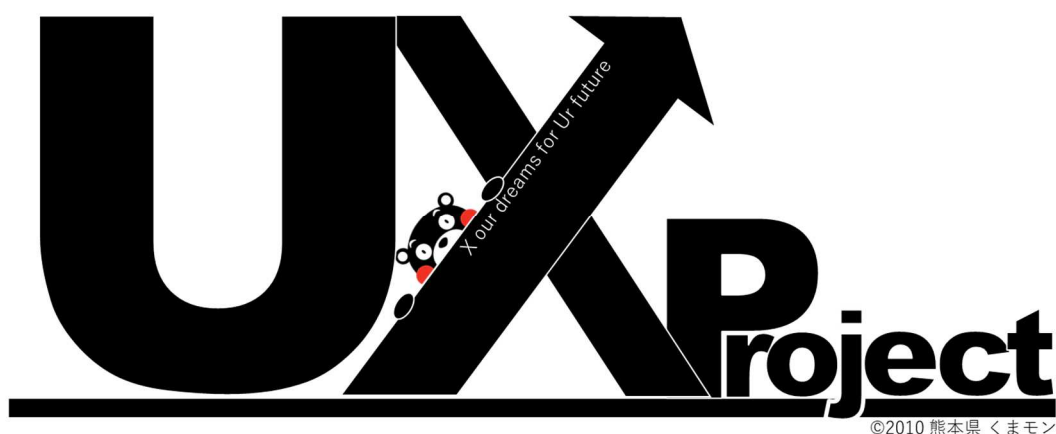


UXプロジェクト実施計画  
(第2期 令和8年度改定版)  
～イノベーションの種を熊本から～



令和7年(2025年)3月策定  
令和8年(2026年)4月改定  
熊本県

## 目次

### 第1章 はじめに

1	新大空港構想・基本計画について	2
(1)	新大空港構想について	2
(2)	基本計画について	2
(3)	基本計画における実施計画の位置づけ	3
2	実施計画(第2期)の改定について	3
(1)	改定の背景	3
(2)	基本的な考え方について	4
(3)	実施計画(第2期 令和8年度改定版)の期間及び概要	4

### 第2章 具体的な取組み

1	プレイヤー ~多種多様な人材の集積・育成~	5
	施策の実施方針	5
2	ネットワーク ~つなぐ・つながる機会の提供~	6
	施策の実施方針	6
3	コンテンツ ~持続的にビジネスを起こすしかけ~	7
	施策の実施方針	7
4	フィールド ~小さく始め、すぐに実証できる場の提供~	8
	施策の実施方針	8
5	データ ~ビジネスに結びつく様々なデータへのアクセス確保~	9
	施策の実施方針	9
6	政策 ~行政による本気のサポート~	10
	施策の実施方針	10
7	ハコ ~リアルでクロスする場の提供~	11
	施策の実施方針	11

(参考資料)

- ・くまもとスタートアップエコシステムコンソーシアム支援方針
- ・くまもとスタートアップエコシステムコンソーシアム支援メニューマッピング

## 第1章 はじめに

### 1 新大空港構想及び基本計画について

#### (1) 新大空港構想について

本県では、平成20年度(2008年度)以降、阿蘇くまもと空港と周辺地域を一体のものとして捉え、周辺地域の可能性の掘り起こし及びその最大化を図る「大空港構想」を提唱し、構想に沿った取組みを推進してきた。平成28年(2016年)12月には、熊本地震からの創造的復興を推進するグランドデザインとして、「大空港構想 Next Stage」を策定し、創造的復興、空港の活性化に繋がる取組みを進めてきた。

そのような中、TSMCの熊本進出が決定し、これをきっかけとして大きな環境変化が生じた。新たな環境変化を踏まえた空港周辺の将来像を描き、その実現に向けた取組み推進するため、令和5年10月に「新大空港構想」を策定。将来像の実現に向けては、「空港機能の強化」、「産業集積・産業力強化」、「交通ネットワークの構築」、「快適な生活ができる街づくり」の4つの柱に基づき取組みを推進することとしている。このうち「産業集積・産業力強化」の一翼をなす取組みとして、「UXプロジェクト」が位置付けられている。

#### <新大空港構想>

(期間) 令和5年度(2023年度)から令和15年度(2033年度)までの概ね10年間  
(将来像) 阿蘇くまもと空港と周辺地域を核とした「地方創生の先進地域」

また、新大空港構想等にて示した本県の目指す理想の姿を実現するための有効な施策として、令和7年3月に「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」を策定。空港周辺エリア全域での新大空港構想の実現のため、当該ビジョンとの将来的な連携を見据えて取り組んでいく。

#### (2) 基本計画について

UXプロジェクトは、50年、100年後を見据え、ビジネス創出の好循環(エコシステム)を形成し、ライフサイエンス分野を中心とした県内産業の「第3の柱」の創出を目指すもの。しかし、その実現は一朝一夕に果たせるものではなく、長期にわたって産学官金が連携しながら、それぞれが継続的に取組むことが必要となる。

令和3年(2021年)10月に策定した「UXプロジェクト基本計画(以下、「基本計画」という。)」では、プロジェクトの基本的な考え方を示し、その推進に向けて、今

後の10年間において必要となる重要な取組みをまとめた。この基本計画を共通の道標として、各関係者が着実に取組みを進めていくことが求められる。

<UX プロジェクト基本計画>

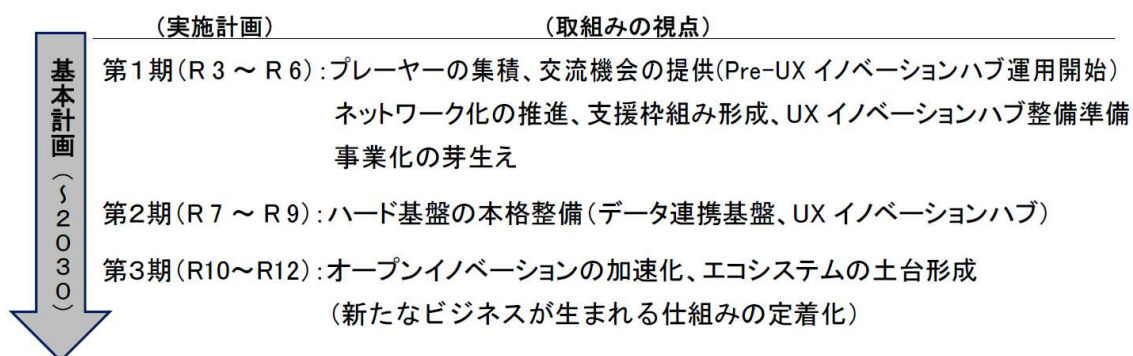
(期間) 令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までの10年間  
(目標) 全国から起業家・企業・研究者等が集い、熊本から生まれることによる賑わいの創出を実現

### (3) 実施計画の位置づけ

基本計画で掲げた目標である「起業家・企業・研究者等の集積等による賑わいの創出(人的・技術的・ビジネスの交流)」を実現していくためには、進捗の段階に応じ、取組みの優先順位を意識しながら、内容を具体化していくことが重要となる。

そこで、基本計画における10年間の3つの期間に分け、プロジェクトの進捗イメージを示し、今後の着実な推進を図る。

そして各期間において「実施計画」を策定することで、短期の目標を明確化し、効率的・効果的な取組みの展開につなげていく。



## 2 実施計画(第2期)の改定について

### (1) 改定の背景

これまでのUXプロジェクトの取組みを通じて、医療・介護・健康・食・ビューティー・スマート農業等の「ライフサイエンス分野」において、熊本発の新事業が多く創出されている。また、県内の各機関においては、新産業の担い手として期待されるスタートアップへの支援が充実するなど、県全体で新産業創出の機運が高まっている。

そのような中、令和7年6月に、県と熊本市などが内閣府「スタートアップ・エコシステム拠点都市」に採択され、県内の産官学金が連携してスタートアップの創出・発展を支援する「くまもとスタートアップ・エコシステムコンソーシアム」が発足した。この中で、各機関の支援策が体系化・整理され、コンソーシアムとしてのスタートアップ支援方針が策定されているため、UXプロジェクトもその方針に則り、コンソ

ーシアムと連携して新産業創出を目指していくこととする。

他方で、半導体関連企業の進出やAI技術の発展など、熊本県を取り巻く環境は大きく変化している。そのような中、本県の経済が将来にわたり持続的に発展していくためには、熊本が有する資源（人材・技術・自然）や強み、産業・研究基盤などの既存の産業領域に新しい技術や他の産業領域を融合することで、県内産業が一段の進化を目指すことが必要である。また、熊本が半導体産業を支える「世界の拠点」を目指すとともに、その技術も活かしながら新たな産業も創出し、県内産業全体の好循環を図ることも必要である。

以上より、今後は、引き続きライフサイエンス分野は重視しつつ、AI・データ、モビリティ、エネルギー等の様々な領域を対象を広げて「第3の柱」として成長させていくこととする。

## （2）基本的な考え方について

「くまもとスタートアップ・エコシステムコンソーシアム」により、現在の産学官金のコミュニティを更に充実させ、地域一体となってスタートアップの成長を徹底支援するとともに、熊本から世界に挑戦し、グローバルで活躍するスタートアップを創出していくことを目指す。

本計画においては、基本計画にて定めた7つの柱（プレーヤー・ネットワーク・コンテンツ・フィールド・データ・政策・ハコ）に基づき、イノベーションにより新産業・新事業の創出を目指す施策の実施方針を定める。

## （3）実施計画（第2期 令和8年度改定版）の期間及び概要

### 期間

令和8年度（2026年度）の1年間

### 計画のポイント

- UXプロジェクトの対象分野を、ライフサイエンスを中心としつつも、AI・データ、モビリティ、エネルギー等にも拡大する。
- 「くまもとスタートアップ・エコシステムコンソーシアム」の発足に伴い、7つの柱（プレーヤー・ネットワーク・コンテンツ・フィールド・データ・政策・ハコ）に基づき、イノベーションにより新産業・新事業の創出を目指す施策の実施方針を定める。

実施計画は原則として毎年1回改定する。

## 第2章 具体的な取組み

### 1 プレーヤー ~多種多様な人材の集積・育成~

新産業・新事業を創出するためには、起業や経営に関する高い資質や能力も持った人材の集積が必要となる。自立的なスタートアップ・エコシステムを創造する上では、熊本県内でそうした人材を育成していくことが何よりも重要となる。以下の施策の実施方針に基づき、総合的に人材が育成されるプラットフォームを構築する

#### 1 施策の実施方針

##### 実施方針

**学生支援** 小中学生・高校生・高専生・大学生などは、現時点では具体的に自らが起業するイメージを描いていないことが多いものの、今後、新産業・新事業を創出するポテンシャルを有する「金の卵」である。こうした若者の主な生活の場である学校を中心に、学校と行政が連携し、スタートアップ等への関心を高めるための施策を展開することで、裾野の拡大と将来の起業家育成を図る。

##### 実施方針

**研究室支援** 大学の研究室には、新産業・新事業につながる研究シーズが多く眠っているが、それを事業に繋げて起業するには、具体的な起業のやり方を学ぶ必要がある。主なターゲットは、大学生・大学院生・若手研究者などとなることから、各大学が参画しつつ、金融機関等のビジネスの専門家が支援して施策を実施する。

##### 実施方針

**初期支援** 起業時や起業初期（シード・アーリー期）においては、スタートアップをどのように成長させていくか、経営者の経営判断を支えるための人材育成が重要となる。このような段階のスタートアップは、他の好事例を学ぶことや他の事業者との連携が重要になることから、支援機関などが、広く人的交流が図られることを意識しつつ、セミナーや伴走支援プログラム等の施策を実施する。

##### 実施方針

**中後期支援** スタートアップが成長すると、自ら必要な情報収集・スキルアップを行うと想定されるが、更なる成長・規模拡大を図っていく上では、海外展開のノウハウや専門人材の獲得が重要である。こうした支援の実施には、専門的な知見が必要となることから、JETRO 等が主導して、伴走支援等必要な施策を実施し、行政としてこれを支援する。

## 2 ネットワーク ~つなぐ・つながる機会の提供~

新産業創出においては、起業家や研究者など多様な人材が交わる機会や環境が重要である。そのために、イベントやオープンイノベーションプログラムなどにより県内のプレーヤー同士の繋がりを強化するとともに、県外・海外の人材やその知見を呼び込むことができるネットワークを形成することが必要である。以下の施策の実施方針に基づき、多様な人材や技術の掛け合わせにより新産業が生まれる土壌を作る。

### 1 施策の実施方針

#### 実施方針

**ピッチコンテスト スタートアップ**は、壁打ちや事業計画のブラッシュアップなど、社外から知見やアドバイスを得ることで事業成長に繋がることが多い。そのため、スタートアップがVC、自治体、海外などと繋がる機会創出に向け、各支援機関が自身のネットワークを生かしたピッチコンテスト等の施策を実施する。

#### 実施方針

**産学連携** 大学の研究室には、新産業につながる技術シーズが多く眠っているが、その事業化には企業ニーズと引き合わせるなど産学連携が重要であることから、各大学が中心となり、研究者と地域企業等と連携できる施策を実施する。また、産学連携コーディネーターが中心となり、人材・技術・フィールドなど地域のもつ資源を適切にマッチングさせ、イノベーション創出を促進する。

#### 実施方針

**コミュニティ形成** スタートアップが抱える課題は多様であり、各種支援施策により解決できるものもあれば、先輩起業家とのコミュニケーションや協業などにより解決に向かうものもある。そうした企業間のネットワークを創出するため、経営者コミュニティの構築やオープンイノベーション促進のための施策を実施する。

#### 実施方針

**海外人材支援** 近年、成長したスタートアップが更なる事業拡大をするためには海外展開が必須であり、そのためには海外に知見を持つ投資家や専門知識をもつ人材の活用が重要である。そうした人材を取り込むためには海外とのネットワークが必要となるため、JETROが中心となり、海外投資家などと繋がる人材支援施策を実施し、行政としてこれを支援する。

### 3 コンテンツ ~持続的にビジネスを起こすしかけ~

スタートアップの抱える課題は、アイデアの創出から EXIT に至る各成長フェーズごとに変化していくため、それぞれに対応する多種多様なコンテンツに対する支援策が必要である。一方で、それらの支援は、全体として連携しつつも、産官学金の支援機関がそれぞれの強みを活かし分担して実施することが望ましい。以下の施策の実施方針に基づき、県内外の各支援機関が支援領域を分担しながら、一丸となってスタートアップをサポートする体制を構築する。

#### 1 施策の実施方針

##### 実施方針

**相談窓口** スタートアップの起業や経営に関する相談や公的申請については、窓口の一本化や事務手続きの簡素化によりスタートアップ側の負担を減らすことができる。その役割は国の機関や自治体が担うことができるため、行政を中心にスタートアップが相談しやすい体制や制度を整える施策を実施する。

##### 実施方針

**資金供給** スタートアップにおける資金供給は、研究開発や事業成長など常に必要とされる支援であるが、成長フェーズにより「寄付(補助金)」、「エクイティ」、「デット」など求められる形が異なる。ここについては金融機関が中心となり、スタートアップに最適な形で資金供給を行う支援施策を実施し、行政としてこれを支援する。

##### 実施方針

**伴走支援** スタートアップのアイデア創出や事業拡大は、アクセラレーションプログラムなどの伴走支援を通じて大きく前進することが多いため、各支援機関は、それぞれの強みやネットワークを生かした伴走支援施策を実施する。

##### 実施方針

**知的財産戦略** スタートアップが保有する独自技術やノウハウなどの知的財産は事業成長に重要な要素で、その保護や活用について専門的な知見を有する INPIT 熊本県知財総合支援窓口が中心となり、関係する支援制度等の活用を促進し、行政としてこれを支援する。

#### 4 フィールド ～小さく始め、すぐに実証できる場の提供～

イノベーションの種をビジネス化するプロセスにおいては、実証実験による検証やデータの取得等が重要なカギとなる。そうしたプロセスの支援を実施するコンテンツの充実化も必要である(前掲3.コンテンツ)が、オープンイノベーションが推進される自立的なスタートアップ・エコシステムを創造する上では、県内でのフィールド提供体制の構築が重要となる。以下の施策の実施方針に基づき、総合的かつ集約的な実証実験の推進体制を構築する。

##### 1 施策の実施方針

###### 実施方針

**サポーター集積** 実証実験には、業種や分野に偏ることなく多種多様なサポーターが参画することで、より多角的な観点からの検証や確度の高い検証ができ、また様々な産業の発展が期待される。そのために、県内外の多様な団体・企業を実証実験のサポーターとして集積することを促進する施策を実施する。

###### 実施方針

**資金支援** 実証実験は主にシード・アーリー期において行われるため、同時期のスタートアップにおいては実証費用に対する資金が十分でない場合がある。そのため、行政が中心となり、実証にかかる費用負担などをサポートする施策を実施する。

## 5 データ ~ビジネスに結びつく様々なデータへのアクセス確保~

ビッグデータなどのデータ情報基盤の活用は、優位性を持ったビジネスや産業創出に効果的である。そのために、データ量の充実とデータの高品質化（データクレンジング）を進めるとともに、民間企業等のユーザー側がデータを利活用しやすい仕組みを整えることが重要である。以下の施策の実施方針に基づき、ビジネスに結びつく様々なデータ利活用の推進体制を構築する。

### 1 施策の実施方針

#### 実施方針

くまもとメディカルネットワーク 医療情報基盤である「くまもとメディカルネットワーク（KMN）」のデータの利活用を行うため、熊本大学・熊本県医師会・県の三者間にて連携・データ活用に向けた取組みを進める。

KMN（くまもとメディカルネットワーク）...医療機関等をネットワークで結び、医療に必要な情報を共有し、医療および介護サービスの質的向上を目的として熊本県医師会が運営する情報基盤。

#### 実施方針

くまもとデータ連携基盤 県内データ連携基盤である「くまもとデータ連携基盤」のデータ利活用を行うため、県のデジタル戦略推進課などと連携しながら、本データを利用してビジネス化した事例等を関係機関に紹介するなど、新産業創出におけるデータ利活用を促進する。

くまもとデータ連携基盤...県・市町村・民間事業者等が保有する様々なデータ（公共施設一覧、避難所、浸水区域など）を、形式を整えて取得・連携することができるシステム

## 6 政策 ~行政による本気のサポート~

スタートアップへの支援やその実施体制は、変遷していくスタートアップのニーズや情勢に合わせて変化させていく必要がある。以下の施策の実施方針に基づき、くまもとスタートアップ・エコシステム コンソーシアムにおける支援策や支援体制を継続的に整備する。

### 1 施策の実施方針

#### 実施方針

**支援策更新** スタートアップへの支援や体制は、実際にスタートアップのニーズを基に構築することが効果的な施策の実施につながる。県内外のスタートアップに随時ヒアリングを実施しながら、それを県全体の支援戦略に落とし込むために、原則として毎年度、本コンソーシアムにおける支援策や体制の更新を実施する。

#### 実施方針

**進捗管理** 内閣府「スタートアップ・エコシステム拠点都市」に申請している各 KPI の達成に向けて、中核となる支援機関を中心に、施策の実施や KPI 達成の進捗について協議を行う。

## 7 ハコ ~リアルでクロスする場の提供~

持続的なイノベーションを創出するためには、つながる機会を提供するとともに（前掲2.ネットワーク）プレーヤーやサポーター等が物理的に交流する場や、スタートアップが協業などを通して製品・サービスを生み出す施設が必要である。以下の施策の実施方針に基づき、プレーヤー等の交流・共創の場を提供し、県内各施設においてイノベーションが創出される運営体制を構築する。

### 1 施策の実施方針

#### 実施方針

**情報提供** プレシード～シード期のプレーヤーは、起業家同士のコミュニケーションやそのコミュニティに属することで、起業や経営に関する情報を取得することができる。このため、行政が運営しているスタートアップ支援施設を中心として、コミュニティ形成やセミナー開催等の支援施策を実施する。

#### 実施方針

**コーディネート** 製品の試作やサービスの開発には、それを実践する小規模のオフィスや製作所はもちろん、技術やアイデアを形にする外部からの協力が重要であることから、行政が中心となり、スタートアップを対象としたオフィスや工場を整備しつつ、人材・技術・フィールドなど地域のもつ資源を適切にマッチングさせ、イノベーション創出を促進するコーディネート施策を実施する。

# 1. プレーヤー

## 【背景】

- 新産業・新事業を創出するためには、**起業や経営に関する高い資質や能力も持った人材の集積**が必要となる。自立的なスタートアップ・エコシステムを創造する上では、**熊本県内でそうした人材を育成していくことが何よりも重要**となる。以下の施策の実施方針に基づき、**総合的に人材が育成されるプラットフォーム**を構築する。

## 【施策の実施方針】

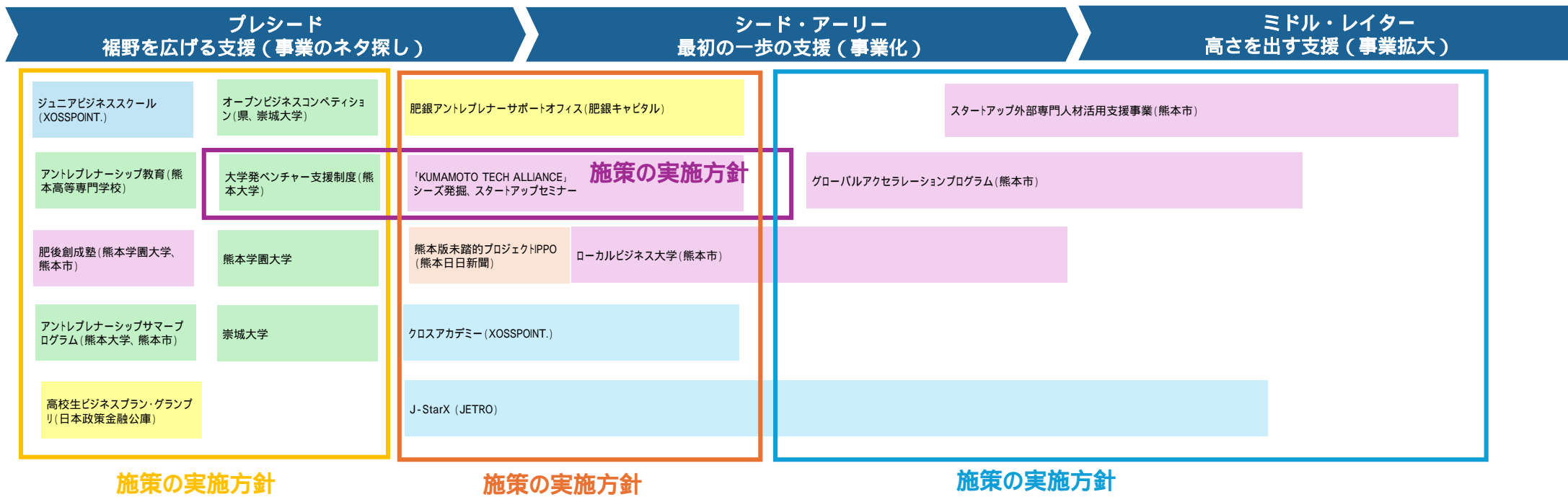
**学生支援** 小中学生・高校生・高専生・大学生などは、現時点では具体的に自らが起業するイメージを描いていないことが多いものの、今後、新産業・新事業を創出するポテンシャルを有する「金の卵」である。こうした若者の主な生活の場である学校を中心に、**学校と行政が連携し、スタートアップ等への関心を高めるための施策を展開することで、裾野の拡大と将来の起業家育成を図る。**

**研究室支援** 大学の研究室には、新産業・新事業につながる研究シーズが多く眠っているが、それを事業に繋げて起業するには、具体的な起業のやり方を学ぶ必要がある。主なターゲットは、**大学生・大学院生・若手研究者**などとなることから、**各大学が参画しつつ、金融機関等のビジネスの専門家が支援して施策を実施する。**

**初期支援** 起業時や起業初期（シード・アーリー期）においては、**スタートアップをどのように成長させていくか、経営者の経営判断を支えるための人材育成が重要**となる。このような段階のスタートアップは、**他の好事例を学ぶことや他の事業者との連携が重要**になることから、**支援機関などが、広く人的交流が図られることを意識しつつ、セミナーや伴走支援プログラム等の施策を実施する。**

**中後期支援** スタートアップが成長すると、自ら必要な情報収集・スキルアップを行うと想定されるが、**更なる成長・規模拡大を図っていく上では、海外展開のノウハウや専門人材の獲得が重要**である。こうした支援の実施には、**専門的な知見が必要**となることから、**JETRO等が主導して、伴走支援等必要な施策を実施する。**

1 プレーヤー  
人材育成



## 2. ネットワーク

### 【背景】

- 新産業創出においては、**起業家や研究者など多様な人材が交わる機会や環境が重要**である。そのため、イベントやオープンイノベーションプログラムなどにより県内のプレーヤー同士の繋がりを強化するとともに、**県外・海外の人材やその知見を呼び込むことができるネットワークを形成することが必要**である。以下の施策の実施方針に基づき、**多様な人材や技術の掛け合わせにより新産業が生まれる土壌を作る。**

### 【施策の実施方針】

ピッチコンテスト スタートアップは、壁打ちや事業計画のブラッシュアップなど、**社外から知見やアドバイスを得ることで事業成長に繋がる**ことが多い。そのため、**スタートアップがVC、自治体、海外などと繋がる機会創出に向け**、各支援機関が自身のネットワークを生かしたピッチコンテスト等の施策を実施する。

産学連携 大学の研究室には、新産業につながる技術シーズが多く眠っているが、その事業化には企業ニーズと引き合わせるなど産学連携が重要であることから、**各大学が中心となり、研究者と地域企業等と連携できる施策を実施する。**また、**産学連携コーディネーターが中心となり、人材・技術・フィールドなど地域のもつ資源を適切にマッチングさせ、イノベーション創出を促進する。**

コミュニティ形成 スタートアップが抱える課題は多様であり、各種支援施策により解決できるものもあれば、先輩起業家とのコミュニケーションや協業などにより解決に向かうものもある。そうした**企業間のネットワークを創出するため、経営者コミュニティの構築やオープンイノベーション促進のための施策を実施する。**

海外人材支援 近年、成長したスタートアップが更なる事業拡大をするためには海外展開が必須であり、そのためには海外に知見を持つ投資家や専門知識をもつ人材の活用が重要である。そうした人材を取り込むためには海外とのネットワークが必要となるため、**JETROが中心となり、海外投資家などと繋がる人材支援施策を実施する。**

プレシード  
裾野を広げる支援（事業のネタ探し）

シード・アーリー  
最初の一步の支援（事業化）

ミドル・レイト  
高さを出す支援（事業拡大）

施策の実施方針

施策の実施方針

「KUMAMOTO TECH ALLIANCE」  
ミートアップ、投資プレゼン、テックブラングランプリ等

Kumamoto City Pitch  
(熊本市)

海外投資家ネットワーク・スカウティング(JETRO)

半導体ベンチャーコンテスト(県)

スタートアップワールドカップ(熊本市)

ピッチイベント(二火会)開催事業(くまもと産業支援財団)

産学連携センター(東海大学)

教育研究シーズとのマッチング  
支援(熊本県立大学)

産学連携マッチング支援(熊本市)

一般社団法人熊本イノベーションベース

HIGO LINK(熊本市)

LIXメンバーシップ(県)

施策の実施方針

2 ネットワーク  
つながる機会、  
人材集積

施策の実施方針

### 3. コンテンツ

#### 【背景】

- スタートアップの抱える課題は、アイデアの創出からEXITに至る各成長フェーズごとに変化していくため、それぞれに対応する多種多様なコンテンツに対する支援策が必要である。一方で、それらの支援は、全体として連携しつつも、産官学金の支援機関がそれぞれの強みを活かし分担して実施することが望ましい。以下の施策の実施方針に基づき、県内外の各支援機関が支援領域を分担しながら、一丸となってスタートアップをサポートする体制を構築する。

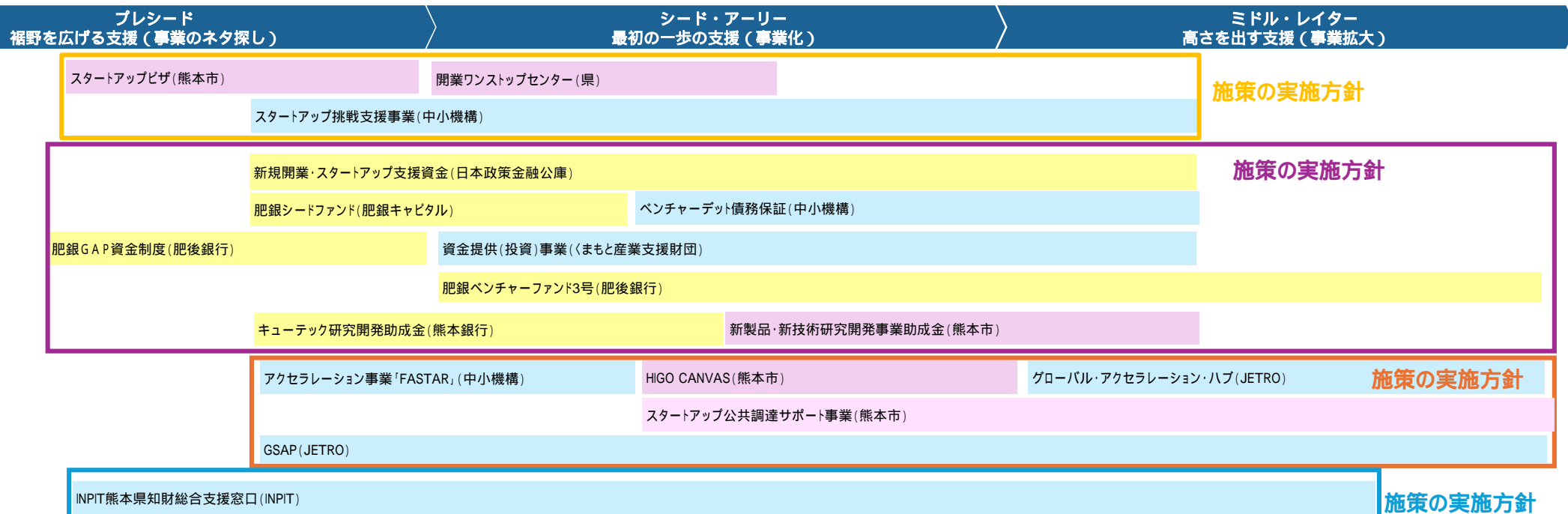
#### 【施策の実施方針】

**相談窓口** スタートアップの起業や経営に関する相談や公的申請については、窓口の一本化や事務手続きの簡素化によりスタートアップ側の負担を減らすことができる。その役割は国の機関や自治体が担うことができるため、行政を中心にスタートアップが相談しやすい体制や制度を整える施策を実施する。

**資金供給** スタートアップにおける資金供給は、研究開発や事業成長など常に必要とされる支援であるが、成長フェーズにより「寄付（補助金）」、「エクイティ」、「デット」など求められる形が異なる。ここについては金融機関が中心となり、スタートアップに最適な形で資金供給を行う支援策を実施する。

**伴走支援** スタートアップのアイデア創出や事業拡大は、アクセラレーションプログラムなどの伴走支援を通じて大きく前進することが多いため、各支援機関は、それぞれの強みやネットワークを生かした伴走支援策を実施する。

**知的財産戦略** スタートアップが保有する独自技術やノウハウなどの知的財産は事業成長に重要な要素で、その保護や活用について専門的な知見を有するINPIT熊本県知財総合支援窓口が中心となり、関係する支援制度等を活用した支援を実施する。



3 コンテンツ  
ビジネスを起こす  
しかけ、支援体  
制、資金体制

## 4 . フィールド

### 【背景】

- イノベーションの種をビジネス化するプロセスにおいては、実証実験による検証やデータの取得等が重要なカギとなる。そうしたプロセスの支援を実施するコンテンツの充実も必要である（前掲3.コンテンツ）が、**オープンイノベーションが推進される自立的なスタートアップ・エコシステムを創造する上では、県内での実証フィールド提供体制の構築が重要**となる。以下の施策の実施方針に基づき、**総合的かつ集約的な実証実験の推進体制**を構築する。

### 【施策の実施方針】

サポーター集積 実証実験には、業種や分野に偏ることなく多種多様なサポーターが参画することで、より多角的な観点からの検証や確度の高い検証ができ、また様々な産業の発展が期待される。そのために、**県内外の多様な団体・企業を実証実験のサポーターとして集積することを促進する施策を実施する。**

資金支援 実証実験は主にシード・アーリー期において行われるため、同時期のスタートアップにおいては実証費用に対する資金が十分でない場合がある。そのため、**行政が中心となり、実証にかかる費用負担などをサポートする施策を実施する。**



### 施策の実施方針

4 フィールド  
実証実験の場

UX フィールド・サポーター  
（実証実験のフィールド提供）（県）

XOSS INNOVATION KUMAMOTO（熊本市）

UX 実証実験サポート事業  
（事業化に向けた実証サポート）（県）

施策の実施方針

## 5 . データ（ビジネスに結びつくデータへのアクセス）

### 【背景】

- ビッグデータなどのデータ情報基盤の活用は、優位性を持ったビジネスや産業創出に効果的である。そのために、データ量の充実とデータの高品質化（データクレンジング）を進めるとともに、民間企業等のユーザー側がデータを利活用しやすい仕組みを整えることが重要である。以下の施策の実施方針に基づき、**ビジネスに結びつく様々なデータ利活用の推進体制**を構築する。

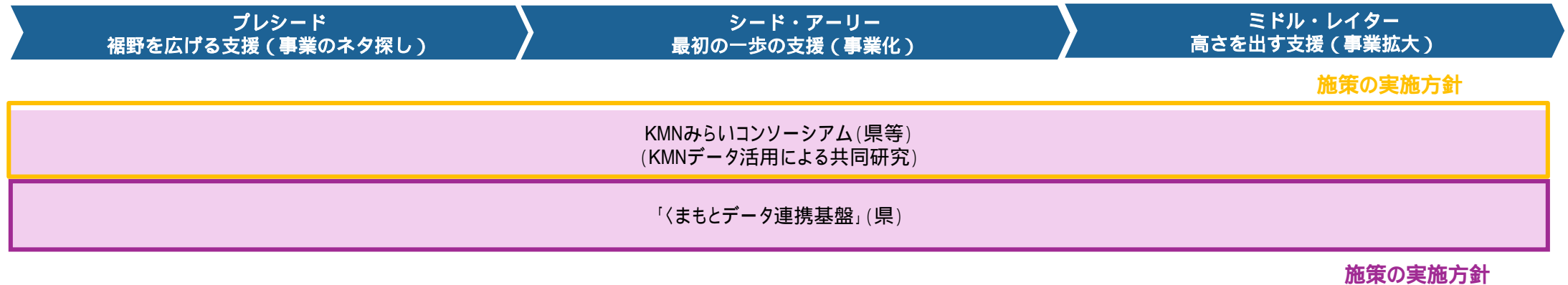
### 【施策の実施方針】

くまもとメディカルネットワーク **医療情報基盤**である「くまもとメディカルネットワーク（KMN）」のデータの利活用を行うため、熊本大学・熊本県医師会・県の三者間にて連携・データ活用に向けた取組みを進める。

KMN（くまもとメディカルネットワーク）...医療機関等をネットワークで結び、医療に必要な情報を共有し、医療および介護サービスの質的向上を目的として熊本県医師会が運営する情報基盤。

くまもとデータ連携基盤 県内データ連携基盤である「くまもとデータ連携基盤」のデータ利活用を行うため、県のデジタル戦略推進課などと連携しながら、本データを利用してビジネス化した事例等を関係機関に紹介するなど、新産業創出におけるデータ利活用を促進する。

くまもとデータ連携基盤...県・市町村・民間事業者等が保有する様々なデータ（公共施設一覧、避難所、浸水区域など）を、形式を整えて取得・連携することができるシステム



## 6 . 政策

### 【背景】

- スタートアップへの支援やその実施体制は、変遷していくスタートアップのニーズや情勢に合わせて変化させていく必要がある。以下の施策の実施方針に基づき、くまもとスタートアップ・エコシステム コンソーシアムにおける支援策や支援体制を継続的に整備する。

### 【施策の実施方針】

支援策更新 スタートアップへの支援や体制は、実際にスタートアップのニーズを基に構築することが効果的な施策の実施につながる。 県内外のスタートアップに随時ヒアリングを実施しながら、スタートアップのニーズを県全体の支援戦略に落とし込むために、原則として毎年度、参画機関の支援策の情報更新や、各支援の位置付けが適切か確認を行う。

進捗管理 内閣府「スタートアップ・エコシステム拠点都市」に申請している各KPIの達成に向けて、中核となる支援機関を中心に、施策の実施やKPI達成の進捗について協議を行う。

プレシード  
裾野を広げる支援（事業のネタ探し）

シード・アーリー  
最初の一步の支援（事業化）

ミドル・レイター  
高さを出す支援（事業拡大）

施策の実施方針

6 政策  
行政としての  
継続的支援

くまもとスタートアップ・エコシステム コンソーシアム  
スタートアップ・エコシステム拠点都市

施策の実施方針

## 7 . ハコ

### 【背景】

- 持続的なイノベーションを創出するためには、つながる機会を提供するとともに（前掲2．ネットワーク）、プレーヤーやサポーター等が物理的に交流する場や、スタートアップが協業などを通して新たな製品・サービスを生み出す施設が必要である。以下の施策の実施方針に基づき、プレーヤー等の交流・共創の場を提供し、県内各施設においてイノベーションが創出される運営体制を構築する。

### 【施策の実施方針】

情報提供 プレシード～シード期のプレーヤーは、起業家同士のコミュニケーションやそのコミュニティに属することで、起業や経営に関する情報を取得することができる。このため、行政が運営しているスタートアップ支援施設を中心として、コミュニティ形成やセミナー開催等の支援施策を実施する。

コーディネート 製品の試作やサービスの開発には、それを実践する小規模のオフィスや製作所はもちろん、技術やアイデアを形にする外部からの協力が重要であることから、行政が中心となり、スタートアップを対象としたオフィスや工場を整備しつつ、人材・技術・フィールドなど地域のもつ資源を適切にマッチングさせ、イノベーション創出を促進するコーディネート施策を実施する。

プレシード  
裾野を広げる支援（事業のネタ探し）

シード・アーリー  
最初の一歩の支援（事業化）

ミドル・レイト  
高さを出す支援（事業拡大）

Pre UX イノベーションハブ(県: ~R8)  
コミュニティ形成、イベントスペース、コワーキング

UX イノベーションハブ(県: R8末~)  
(コミュニティ形成、イベントスペース、コワーキング、シェアオフィス、専用オフィス、等)

XOSSPOINT.(熊本市)  
(スモールオフィス、創業支援室、経営・融資相談、セミナー、無料相談 等)

くまもと大学連携インキュベータ運営  
(中小機構、県、市)

施策の実施方針

施策の実施方針

テクノインキュベーションセンター  
(株)テクノインキュベーションセンター

7 ハコ  
リアルでクロスする  
場

プレシード  
裾野を広げる支援（事業のネタ探し）

シード・アーリー  
最初の一步の支援（事業化）

ミドル・レイター  
高さを出す支援（事業拡大）

1 プレーヤー  
人材育成

ジュニアビジネススクール (XOSSPOINT.)  
アントレプレナーシップ教育 (熊本高等専門学校)  
肥後創成塾 (熊本市)  
アントレプレナーシップサマープログラム (熊本大学、熊本市)  
高校生ビジネスプラン・グランプリ (日本政策金融公庫)

オープンビジネスコンペティション (県、崇城大学)  
大学発ベンチャー支援制度 (熊本大学)  
熊本学園大学  
崇城大学

肥銀アントレプレナーサポートオフィス (肥銀キャピタル)

「KUMAMOTO TECH ALLIANCE」  
シーズ発掘、スタートアップセミナー

熊本版未踏的プロジェクト  
IPPO (熊本日日新聞)

クロスアカデミー (XOSSPOINT.)

J-StarX (JETRO)

ローカルビジネス大学 (熊本市)

グローバルアクセラレーションプログラム (熊本市)

スタートアップ外部専門人材活用支援事業 (熊本市)

2 ネットワーク  
つながる機会、  
人材集積

産学連携センター (東海大  
大学)

産学連携マッチング支援 (熊本市)

「KUMAMOTO TECH ALLIANCE」  
投資プレゼン、ピッチコンテスト等

半導体ベンチャーコンテスト (県)

ピッチイベント (二火会) 開催事業 (くまもと産業支援財団)

教育研究シーズとのマッチ  
ング支援 (熊本県立大学)

Kumamoto City Pitch  
(熊本市)

スタートアップワールドカップ (熊本市)

海外投資家ネットワーク・スカウティング (JETRO)

一般社団法人熊本イノベーションベース

HIGO LINK (熊本市)

UX メンバーシップ (県)

スタートアップビザ (熊本市)

開業ワンストップセンター (県)

スタートアップ挑戦支援事業 (中小機構)

新規開業・スタートアップ支援資金 (日本政策金融公庫)

肥銀シードファンド (肥銀キャピタル)

肥銀GAP資金制度 (肥後銀行)

ベンチャーデット債務保証 (中小機構)

資金提供 (投資) 事業 (くまもと産業支援財団)

肥銀ベンチャーファンド3号 (肥後銀行)

キューテック研究開発助成金 (熊本銀行)

新製品・新技術研究開発事業助成金 (熊本市)

アクセラレーション事業「FASTAR」 (中小機構)

HIGO CANVAS (熊本市)

グローバル・アクセラレーション・ハブ (JETRO)

スタートアップ公共調達サポート事業 (熊本市)

GSAP (JETRO)

INPIT熊本県知財総合支援窓口 (INPIT)

4 フィールド  
実証実験の場

UX フィールド・サポーター (実証実験のフィールド提供) (県)

XOSS INNOVATION KUMAMOTO (熊本市)

UX 実証実験サポート事業 (事業化に向けた実証サポート) (県)

5 データ  
ビジネスに結びつく  
データへのアクセス

KMNみらいコンソーシアム (KMNデータ活用による共同研究)、「くまもとデータ連携基盤」

6 政策  
行政としての継続的支援

くまもとスタートアップ・エコシステム コンソーシアム

7 ハコ  
リアルでクロスする場

Pre UX イノベーションハブ (県: ~R8)  
コミュニティ形成、イベントスペース、コワーキング

UX イノベーションハブ (県: R8末~)  
(コミュニティ形成、イベントスペース、コワーキング、シェアオフィス、専用オフィス、等)

XOSSPOINT. (熊本市)

(スモールオフィス、創業支援室、経営・融資相談、セミナー、無料相談 等)

くまもと大学連携インキュベータ運営  
(中小機構、県、市)

テクノインキュベーションセンター  
(特)テクノインキュベーションセンター)